

100円グッズから始める  
歯科医院の整理・収納アイデア集

見た目がキレイ！  
スタッフが働きやすい！  
空間を有効活用できる！

『100円グッズから始める 歯科医院の整理・収納アイデア集』(日本歯科新聞社) B5変形判/80ページ/オールカラー

# インタビュー

## 院内環境の見直しが医院の悩みを解決

清潔感や、スタッフの働きやすさがキーワードとなっている今、リニューアルしたり、院内の環境を見直したりする歯科医院が増えている。『100円グッズから始める 歯科医院の整理・収納アイデア集』の著者である小原啓子氏(デンタルタイアップ代表)は、「スタッフが定着しない、患者さんが減っているといった悩みが、院内環境の見直しで解決することが少なくない」と言う。院内環境改善のポイントと効果について聞いた。



デンタルタイアップ代表  
小原啓子氏

### ポイントと効果は？

「歯科衛生士教育の立場から経営コンサルタントに転身して13年以上、歯科医院経営やスタッフ教育を多面的にサポートされてきたと伺いました。その中で、一般的に5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)と表現される院内環境の改善を大事にされているとのことですが。」

小原 15年前に、大学の通信(課程)で経営学を学び、組織にとって仕事場の環境整備が大切であることを知りました。もちろん医療環境整備の一環として、消毒や滅菌については学んでいたものの、「チームで取り組むための環

境づくり」という視点が抜けていたことに気付かされたのです。デンタルタイアップを立ち上げる前から、技術研修の指導を依頼されてさまざまな医院に伺う機会がありました。そこで目の当たりしたのは、消毒や滅菌には気を使っている、モノがあふれ、どこに何があるかを探すのに手間取り、掃除そのものができていないという現状でした。

これらを改善すれば、スタッフが働きやすくなり、ヒヤリハットも減り、コストダウンにもつながるなど、医院にとってのメリットは絶大だと感じたのです。

### 「チームのため」の視点必要

### すぐでできる知恵の共有を

級」の資格を取得するようにしています。私たちが主催している5Sセミナーは、産業能率大学総合研究所とタイアップしていますので、修了証の他、「整理収納アドバイザーオフィス&ホーム」の認定も取得できます。

他業界のノウハウをそのまま歯科で生かすのは難しいこともあると感じますが。

小原 その通りです。歯科に合わない方法では、労力ばかりが増え、長続きしません。歯科の事情に合わせて生かす方法を考えるのが、私たちの役割と考えています。

「100円グッズから始める 歯科医院の整理・収納アイデア集」が、6月末に発売して以来、販売が伸び続けています。歯科医院にとってこの本の魅力は、

小原 私たちの活動の中から、どの歯科医院にもすぐに実践できる、整理・収納の見直しに関する知恵をまとめたものです。どのページをパッと開いても、「なるほど。うちでもやってみよう」と思っていただけの内容がたたくと掲載されています。

何よりも、32の歯科医院に協力いただいたことが、素晴らしい本に仕上げられた原動力となっています。ぜひ、たくさんの方に活用いただきたいです。

「どのタイミングで見直すのがよいのでしょうか。」  
小原 いつ始めてもよいのですが、「なんとなく患者さんが減っている」「新人スタッフが育たない」「モノがなくなる」「疲れやすい」「人間関係がしつこい」とい

実は、院内環境の改善は、ここに来て重要性が増してきています。

「どのような変化がありましたか。」  
小原 情報共有の在り方が課題となっています。スタッフの入れ替わりが早くなり、勤務体制も多様化し、個室が増えたことで治療前後の情報共有が難しくなっています。栄養士、保育士など、多職種の方と一緒に働く機会も増えています。

また、予防の考えが広まったことで、歯科衛生士業務が複雑化しています。受付も専門性が増し、

どの悩みを抱えている時や、「移行時」「継承時」は特にお勧めです。

「どのような手順で進めればよいですか。」  
小原 基本的には、厚生労働省が第6次医療法改正を受けてまとめた「医療分野の『雇用の質』向上のための勤務環境改善マネジメントシステム導入の手引き」に沿って進めるのが望ましいと考えています。

「整理・収納の見直しが進むと、医院はどのように変化しますか。」  
小原 まず、患者さんから「あれっ、改装しました？」と驚かれる医院が多いようです。診療室にモノが少なくなると、錯覚で明るく見えるようです。

スタッフの方は、最初は混乱が生じても、表情に自信がみなぎってくるのを感じます。今まで目立たなかった人が、急に輝き出すこともあります。

SNSでの情報発信という新しい仕事も生まれています。

「コロナ禍で患者さんの清潔に対する目が厳しくなり、さらにスタッフは疲弊しているのでは、何を何とかしてあげたいですね。」  
「5Sと言えは患者さんへの配慮と思っていました。そこで働くスタッフの問題が大きいので、環境改善のノウハウなどについてはどこで学ばれたのでしょうか。」

小原 一番着目したのは、工場での生産管理です。「丸ごと工場」「ストダウン事典」(日刊工業新聞社)の発想を歯科に変換すれば、院内の環境は劇的に良くなると思います。

国の独立機関である中小企業大学校での、工場での生産管理や5S活動の講座を受けに行ったりもしました。食品工場では、食中毒を避けるために医療界以上に感染管理の仕組みが徹底されていたり、時間帯によって生産ラインごとの製造物が変わったりするのに対応したりしており、学ぶことは山ほどありました。

弊社の社員は、基本的に「整理収納アドバイザーオフィス&ホーム」と「クリンネス1」  
ドクター、歯科衛生士、歯科助手、また、先輩後輩などの立場を越えて、「働きやすさ」を共感できる。チームの雰囲気も良くなります。「自宅までキレイになつた」という声を聞くことも少なくありません。

「ちょっと大きめに聞こえるかもしれないませんが、職場だけでなく、人生まで好転していくと、実感する場面が多いですね。」

「整理・収納の見直しの重要性は理解できても、なかなか踏み切れないという院長へのアドバイスをお願いします。」  
小原 最初から大々的に手を付ける必要はありません。まずは、一番重要で、かつ簡単に取り組めるエリアを探して始めるのがよいと思います。どこかが改善されてその効果がみんなで実感できると、自然に他の部分も気になって、さらに見直しエリアを広げていきやすくなると思いますよ。